

男はつらいよ

監督・原作 山田洋次

柴又より愛をこめて

■トラ年の寅さん、36作■

沖の小島に寅がゆく
寅がゆくから恋がある。

清子 恵子 巳子 雄次 隆吟 衆純 三隆 郎三 三拓 小卷
美千子 正巳 千恵子 久雄 次郎 秀隆 吟 衆純 三隆 郎三 三拓 小卷
渥倍 下條 三崎 太宰 佐藤 吉岡 前田 笠 美保 田中 森本 川谷 栗原

製作・島津清
脚本・山田洋次
脚本・中川滋弘
撮影・朝間義隆
美術・高羽哲夫
音楽・出川三男
宣伝協力・山本直純
東海汽船



楽しさイッパイ松竹映画。



祝吉

栗山富夫監督作品

しゅくじ

えー、今日の佳き日に
テンヤ、ワンヤの大さわぎで
ございます。

財津 一郎
林 美智子
和 由布子
工藤 夕貴
山口 良一
柄本 明
植木 等
製作 名島 良英
脚本 近藤 正樹
撮影 高橋 盛夫
美術 安田 浩吉
音楽 三重 敏悟



男はつらいよ

監督・原作

山田洋次

柴又より愛をこめて

◆かいせつ

昭和十一年に蒲田から現在の大神撮影所に映像文化を移して以来一九八六年で五十周年を迎える。その間に製作した映画は美に一千四百余本を数え、日本映画史に残る数多くの名作が誕生、世にいう「大船調」と呼ばれる言葉で、松竹映画は愛され歴史と伝統に満ち溢れた映画製作が続けられてきた。

その歴史ある大神撮影所で、日本人の心の中に粹で優しい人間像を植つけた「男はつらいよシリーズ」が山田監督の手によって生まれ、五十年間の歴史の中で十七年間という驚異的なシリーズとして観客を動員。寅さんの魅力は計り知れないほど、映画ファンを虜にしている。むかえて、トラ年の寅さん三十六作目は、題して「男はつらいよ・柴又より愛をこめて」。

家出したあけみを連れもどしに伊豆下田に向いた寅次郎だったが、ダダをこねるあけみと一緒に式根島まで足を伸ばすハメになった。船中で知り合った島の小学校の同窓会に帰る青年たちは十一人。島の先生が美人だと聞いて大喜びの寅は、あけみのことなどすっかり忘れて同窓会に参加した。「二十四の瞳」の登場人物のように振舞う寅次郎であった……。

伊豆七島は式根島を舞台に、島の女教師と寅次郎の恋物語りが、華やかにそしてせつなく描かれる。今回のマドンナには、第4作「新・男はつらいよ」以来の栗原小巻が再び登場。しつとりとした演技が期待される。もちろん寅さんの渥美清、さくらの倍賞千恵子をはじめ、下條正巳、三崎千恵子、前田吟、太宰久雄、佐藤蛾次郎、吉岡秀隆、笠智衆、美保純のレギュラーが元気に顔を揃え、特に美保純が寅さんと一緒に旅で大活躍をする。

監督・山田洋次、撮影・高羽哲夫、音楽・山本直純ら、ベテランスタッフが楽しい正月作品をめざして張り切っている。ロケは、伊豆下田・式根島を中心に行なわれ、晩秋の美しい景色がたっぷり映し出される。

最新36作

製作	山田洋次	脚本	山田洋次	撮影	高橋貞一	美術	山本直純	音楽	鈴木木	録音	鈴木木	調整	鈴木木	照明	鈴木木	編集	石井好	監督助手	五十嵐敬	進行	五生宗	製作主任	峰順	衣裳	松竹	スチール	長谷川宗
製作	中島津	脚本	朝山義	撮影	高橋貞一	美術	山本直純	音楽	鈴木木	録音	鈴木木	調整	鈴木木	照明	鈴木木	編集	石井好	監督助手	五十嵐敬	進行	五生宗	製作主任	峰順	衣裳	松竹	スチール	長谷川宗
製作	中島津	脚本	朝山義	撮影	高橋貞一	美術	山本直純	音楽	鈴木木	録音	鈴木木	調整	鈴木木	照明	鈴木木	編集	石井好	監督助手	五十嵐敬	進行	五生宗	製作主任	峰順	衣裳	松竹	スチール	長谷川宗

■キャスト

車寅次郎	渥美清	さくら	倍賞千恵子	車竜造	下條正巳	つね	三崎千恵子	社長	太宰久雄	源公	佐藤蛾次郎	満男	吉岡秀隆	諏訪博	前田吟	御前様	笠智衆	あけみ	美保純	真知子	栗原小巻
------	-----	-----	-------	-----	------	----	-------	----	------	----	-------	----	------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------

■スタッフ

製作	中島津	脚本	朝山義	撮影	高橋貞一	美術	山本直純	音楽	鈴木木	録音	鈴木木	調整	鈴木木	照明	鈴木木	編集	石井好	監督助手	五十嵐敬	進行	五生宗	製作主任	峰順	衣裳	松竹	スチール	長谷川宗
----	-----	----	-----	----	------	----	------	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	------	------	----	-----	------	----	----	----	------	------

祝辞

栗山富夫

監督作品

◆かいせつ

家族、兄弟、仲間といった身近な素材から、誰もが共有できるユーモアと感動の作品として、85年夏公開した「俺ら東京さ行ぐだ」(監督・栗山富夫)は、「松竹映画お得意のファミリー喜劇復活」と高い評価を受けると共に、その独壇上ともいわれている新しい喜劇が、装い新たに誕生。『身近な幸福』路線としてスタートした。

その第2弾は、「祝辞」に決定、前作「俺ら東京さ行ぐだ」同様、栗山富夫監督と同じスタッフによって製作を開始した。身近な人々、身近な出来事や誰もが関心深い話題を取り上げ、幅広い観客層に本当に楽しんでもらえる映画として、松竹が全力で取り組むものである。

61年正月に「男はつらいよ・柴又より愛をこめて」と同時に公開する「祝辞」は、平凡で、うだつのあがらない停年間近の万年課長が、専務から息子の結婚式で祝辞を述べたけれど頼まれる。上司に認められる最後のチャンスとばかりに大張り切りの課長。家族と会社を舞台に、男の仕事、夫と妻、父親と息子・娘、停年の問題といった観客にとっても他人事ではない身近なテーマをコミカルに、さらに感動的に描いてゆく。

出演者は、万年課長に財津一郎、その妻に「俺ら東京さ行ぐだ」で名演技が光った林美智子、娘に人気No.1アイドルスター工藤夕貴、息子に人気絶頂の山口良一、その恋人に女優の道を確実に登って行く和由布子、他に「女の心は女優の道」でレコードデビューする、ブス子くらぶが華を添え、さらに植木等、神崎愛らベテランの演技陣が競演する。

監督は、喜劇の演出家として一躍脚光を浴びた栗山富夫。脚本は高橋正固、撮影・安田浩助、美術・重田重盛また音楽に、ジャズに東洋の伝統音楽を加えて日本ジャズ大賞を受賞した日本ジャズ界の新鋭、三木敏悟を迎え、シリーズ作品に盛り上げるべくベスト・スタッフがあつた。

■スタッフ

製作	名藤英	脚本	近藤良	撮影	高橋貞一	美術	山本直純	音楽	鈴木木	録音	鈴木木	調整	鈴木木	照明	鈴木木	編集	石井好	監督助手	五十嵐敬	進行	五生宗	製作主任	峰順	衣裳	松竹	スチール	長谷川宗
----	-----	----	-----	----	------	----	------	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	------	------	----	-----	------	----	----	----	------	------

■キャスト

財津一郎	林美智子	和由布子	工藤夕貴	山口良一	神崎愛	飯田干	前田吟	柄本武彦	植木等	木原夏子	正	衣	衣	衣	衣	衣	衣	衣	衣	衣	衣	衣	衣	衣	衣	衣	衣	衣
------	------	------	------	------	-----	-----	-----	------	-----	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

